

## 集団 CRAFT プログラムを導入した病的賭博の一症例

○ 丹野万樹<sup>1)</sup> 大川 直樹<sup>2)</sup> 時岡かおり<sup>1)</sup>

1) 心理士 2) 看護師

医療法人 耕仁会 札幌太田病院

**【目的】**病的賭博患者の家族に対し、「コミュニティ強化と家族支援 (Community Reinforcement and Family Training)」の集団プログラム(以下、集団 CRAFT)を導入し、賭博頻度の減少と、家族内のコミュニケーションの改善が見られた症例を報告する。

**【方法】**《①対象》病的賭博患者 A 氏(20代男性。うつ病、病的賭博)の母。

《② A 氏の現病歴と治療経過》X-9年、賭博開始。X-6年頃より、うつ病で精神科通院。X-3年、うつ症状悪化で退職した頃より、賭博の掛け金が増加し、X-2年の再就職後からは借金開始。その後、母が金銭管理するも、インターネット上での賭博を続け、借金増大。このことからうつ症状が悪化し、X年12月、依存症治療を希望して当院初診。週1回ペースで受診し、依存症治療プログラムの SMARPP を実施(全12回)。X+1年6月には、病棟内内観療法を目的とした1週間の入院治療を行い、退院後は通院継続。

《③ 集団 CRAFT 概要》A 氏の治療と並行し、X+1年5月より、母が集団 CRAFT に参加(参加者2~5名)。60分のセッションを月2回、計5回実施。第1回目に、自我状態を測定する心理検査 TEG を実施し、第2回目に結果をフィードバック。同時に、①家族の動機づけと CRAFT に関する心理教育②問題行動の機能分析③効果的なコミュニケーションに関する心理教育④望ましい行動の強化に関する心理教育⑤望ましくない行動を減らすための心理教育を、参加者の状況に合わせてながら行っていった。

**【結果】**《①集団 CRAFT の経過》〈第1回目〉CRAFT に関する心理教育を行い、これまでの A 氏への関わり方が「冷たい、批判的」と受取られる」と話す。〈第2回目〉理性的で現実重視の判断傾向を示す A 優位型の TEG の結果を受け、「病的賭博を受け入れていなかった。壁を作った言い方になっていた」と洞察。〈第3回目〉効果的なコミュニケーションに関する心理教育を行ない、「言葉の重要性を感じた。繰り返し練習する」と語る。〈第4回目〉「相手の話をよく聞くことの大切さを実感」と語る。〈第5回目〉望ましい行動の強化に関する心理教育を行い、「自分がかわらなきゃと思った」と語る。

《②母の行動変化と賭博頻度の変化》これまで、母は A 氏の賭博の話題に否定的な反応を示してきたが、集団 CRAFT 参加以降は A 氏の話一旦受け止めるようになった。また、賭博頻度の減少に対し「すごいね、えらいね」と肯定的に反応するようになった。集団 CRAFT 開始時期、A 氏は「両親が依存症を理解してくれない」「カラオケに行っても“(証拠の)写真を送って“と言うので息苦しい」と話していたが、集団 CRAFT 第5回目頃より「母が、賭博欲求も含め話を聞いてくれるようになった。嬉しい」と話すようになった。また同時期より、月に半分程度の賭博頻度が、2ヶ月間に1回の頻度に減少した。

**【考察】**集団 CRAFT 参加前、母は A 氏の賭博の話題に否定的に反応していたが、賭博頻度は変化しなかった。一方、集団 CRAFT に参加し、母が A 氏の賭博の話題を一旦受け止め、肯定的に返答するようになった頃より、賭博頻度に減少がみられるようになった。

A 氏が、病棟内内観療法を行なった時期と並行して、母が集団 CRAFT に参加し始めたことにより、母の A 氏への介入方法の変容と、A 氏自身の家族観の変化が同時に奏功し、家族のコミュニケーション改善に繋がったと考えられる。それにより、A 氏は賭博欲求も正直に話し、気持ちを落ち着かせることができるようになったため、賭博頻度の減少につながったと考えられる。

**【結語】**依存行動の変容には、依存症者への直接的な介入に加え、CRAFT による家族介入が相乗的に効果が得られると考える。

**【引用文献】**スミス, J.E.・メイヤーズ, R.J. 境泉洋・原井宏明・杉山雅彦(監訳) 2012 CRAFT 依存症患者への治療動機づけ-家族と治療者のためのプログラムとマニュアル 金剛出版